

知事記者会見の概要

日 時：令和2年7月4日（土） 18:02～18:30

場 所：502会議室

出席者：知事、健康福祉部長、医療統括監、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ7台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 県内における新型コロナウイルス感染症の確認事例について（第70例目）

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

< 幹事社：山新・時事・SAY >

☆報告事項

知事

はじめに、昨日からの豪雨により、熊本県、それから鹿児島県など南九州において大変な被害があったと報道で承知をしております。被害に遭われた皆様に心からお見舞を申し上げます。

さて、本県のことですけれども、本日新たに 1 名の方の新型コロナウイルス感染が確認されましたのでお知らせいたします。本県では 70 例目となります。

感染が確認されたのは、20 代の男性で、南陽市にお住まいの団体職員の方で、7 月 1 日からお仕事を休みされております。

6 月 30 日から 37℃台の発熱があり、翌日の 7 月 1 日には 39℃台の発熱と頭痛、そして倦怠感があり、医療機関①を受診しました。発熱が続いたため、7 月 3 日に医療機関②新型コロナウイルス感染症外来を受診されました。そこで実施した PCR 検査の結果、本日、陽性が判明しました。

行動歴を申し上げますと、昨日、東京都で新型コロナの感染が判明した友人がおりまして、その友人がですね、6 月 27 日に本県に来られ、29 日までこの男性と行動を共にされております。そのほかの行動歴は現在調査中であります。濃厚接触者につきましては、ご家族や職場の同僚の方などが考えられますが、現在調査中であります。そして、置賜地域の感染症指定医療機関に入院予定でございます。

また、別の件なんですけれども、フィリピンから帰国した山形市在住の方が、成田空港検疫で PCR 検査を実施しましたところ、陽性が判明したということが、先ほど山形市から公表されました。

現在、村山地域の感染症指定医療機関に入院中と聞いております。この方は空港検疫での感染者数にカウントされますので、本県の感染者数には含まれません。

以上のことから、入院予定の方を含めると、本県の入院患者数は現在 3 名となります。

本日、約 2 カ月ぶりの感染者が山形県で確認されました。また、本日の東京都の感染者数が 131 人ということで、3 日連続で 100 人を超えております。全国でも連日確認されているなど、そういう状況になっております。さらに、海外からの帰国者からも本県で感染者が確認されたところであります。

県民の皆様には、不安感もあるかと思っておりますけれども、落ち着いて冷静に行動していただきたいと思っております。

県としましては、今後、しっかりと積極的疫学調査を実施し、濃厚接触のあった方に対しては、速やかに PCR 検査を実施いたしますとともに、2 週間程度の健康観察を行います。もし、この間に症状が出た場合には、速やかに保健所にご連絡いただくよう指導して、感染が拡大しないよう、対応してまいります。

昨日に引き続き、県民の皆様をお願いをいたします。東京都など感染者数が増加傾向に

ある地域への不要不急の移動について、感染状況が落ち着くまでの間、できるだけ控えていただくなど、そしてオンラインなどいろいろな文明の利器を活用していただくなどして、そういった慎重に行動してくださるようお願いいたします。

やはり県内で発生確認されたということでもありますので、県民の皆さんに注意喚起をさせていただきます。十分警戒をしていかなければと思っているところです。ただ、正しく恐れるということが大事だと思います。

日常生活ではですね、新しい生活様式、これが基本的な感染防止策でありますので、「三つの密」の回避、要するに身体的距離を置くとかですね、マスクを着用する、こまめな手洗いなど、そういったことを実践していただきたいと思っております。業界の方には業種別のガイドラインというものがございますので、それを徹底していただきながら、普段の生活及び活動を行っていただきたいというふうに思っております。

最後になりますけれども、くれぐれも感染された方とご家族、また職場、医療従事者等関係者に対する差別や偏見、いじめなどは断じて行わないでいただきたいと思っております。

風邪とかインフルエンザに罹った人をですね、病気にかかった人をやはり偏見や差別の目で見るとするのは非常によくないことだと思いますし、第一波の時にはですね、県内で様々なデマが流布しました。私の耳にも届きまして、「もうあそこには人が、どこかに行ってしまうもういなんだって」とかですね、本当にいろんなことが言われました。でも確認しましたらそういうことはありませんでしたので、デマとかですね、そういったものを流布しないようにしていただきたいと思っておりますし、本当に一日も早い回復を一緒になって祈っていただきたいというふうに思います。

県としましても、全力で封じ込め、全力で対応してまいりますので、県民の皆さんも正しく恐れながら生活をしていただきたいというふうに思っております。

それから報道機関の皆様には、個人情報保護及びご自身の感染リスクを回避する観点からも、医療機関等への取材はご遠慮いただきますようお願いいたします。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

毎日新聞の的野です。1人感染が確認されたということですが、注意レベルは2に引き上げるだとか、そういった方針は今のところいかがですか。

知事

そうですね、確認されたということで、単なる「注意」からそれよりちょっと上の「警戒」というようなところに入るかと思っておりますけれども、ただ、4つのレベル段階を公表した時から、ちょっといろいろ事情も変わってきておまして、検査体制や医療提供体制、そういったものも拡充をしたりですね、いろんなことがございますので、今、内容を精査、見直し検討中でございます。

ただ、確認されたということでもありますので、県民の皆さんにはやはり、私自身も今気を引き締めているところでもありますけれども、改めて新しい生活様式、そのことをしっかりと定着、身に付けていただきますようお願いしたいと思います。

記者

すみません、つまりそのレベルの引上げ自体は今後検討ではあるけれども、レベル 2 と同様の注意を心がけていただきたいという認識で。

知事

そうですね、はい。

記者

はい。あと、もう 1 点。昨日は東京都への往来をなるべく控えていただきたいという。

知事

移動ですね。

記者

移動を控えていただきたいというお話だったんですけども、この方は友人が東京都からいらっしゃっていたということで、そういった、観光面で今東京からいらっしゃる方も多くいるかもしれないんですけども、そういった方々に対しては、来県を控えるような呼びかけはされない方針でいらっしゃいますか。

知事

そうですね、やはり県民の皆さんに対しての注意喚起、それから移動はできるだけ慎重にということをお願いをいたしますけれども、現在のところ、やはり 100 人以上 3 日も連続して超えているそういう地域でありますので、やはり東京都あるいは政府ですね、そういったところで、もうちょっと地方への配慮というような、移動への配慮というようなことをですね、その地域地域でやはり検討していただきたいというふうに私は思っております。

記者

つまり東京都知事さんに向けて、山形県としてはなるべく地方のことを考え、移動を自粛して欲しいというそういう意味合いですか。

知事

そうですね、はい、今ちょうど都知事の選挙中でもありますのでね、今大変なところかとは

思っておりますけれども、東京都、あるいは政府ということになりますけれども、やはりたくさんの方が住んでおられて、そして地方への移動はやはりビジネスとかですね、あと本当に重要な要件もあるかと思っておりますので、全く止めるというようなことにはいかないと思っておりますけれども、やはり3日間続いて100人を超えているというのは、これはやはり大変なことだと思っております。そして陽性は確認されませんでしたけれども、本県でもですね、移動されてきた方の周りですといたしますか、ちょっといろいろと検査もいろいろとして、それでも陰性だったというようなこともあって、毎日もうハラハラドキドキというような状況が続いておりますので、いつ出てもおかしくない、もう警戒しなきゃいけない状況だというようなことを私、県議会の中でも、知事説明の中でもちょっと申し上げたりもしましたけれども、やはり全国そういう状況ではないかと思っております。しばらくぶりで感染者が発生したというような、ほかの県もございますので、やはりこのままだと飛び火と言いますか、やはり地方にどんどんとですね、また発生するというようなことが考えられますので、やはり何らかの呼び掛けを、都知事なり政府がしていただきたいなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

日本経済新聞の浅山です。今の段階で判断するのは大変難しいかと思いますが、いわゆる宿泊施設の方なんかは、そういう東京からの受入れをこのまま続けて大丈夫なのかどうなのかなど考えられたりしていることもあるかと思っております。もう1つ県民の方もですね、特に夏に向けて、帰省とかですね、法事みたいなものとかですね、こういう行事をどうされるかと、そろそろ飛行機の予約とかいろいろあるかと思うのですが、何かこの辺でまだ呼び掛けの段階にはまだないということなんでしょうかね。

知事

そうですね、第1波の時とは違うことは、やはり新しい生活様式ということで個人の生活、また業種別のガイドラインということでも感染防止策ということについて、だいぶ意識が浸透してきて、その実践という環境づくりのほうに力を入れてきていると、これからはしっかりとそこに向かうと思っておりますので、やはり新しい生活様式、これがやはり最も、今日もここに旗を立ててもらった(補足:会場内に『新・生活様式』を実践しよう!)ののぼりを設置)のですけれど、ここがやはりこれからの基本になるかと思っております。こういったことを徹底しながら、実践しながら、やはりこの新型コロナウイルスの、行政としては封じ込めをしっかりとやってですね、県民の皆さんにはこの新しい生活様式を守っていただいて、正しく恐れて、できる限り普段の生活をしていただく、そういったことがこれからのコロナを乗り越えていく時のやはり心構え、手段になると思っております。

記者さんのおっしゃった宿泊とかですね、そういったことにつきましては、来ている所も来ていない所もあるとは聞いておりますけれども、宿泊施設にしても、やはりいろいろな配慮もしていると思いますし、来られる方も十分に体調というようなものを管理しながらですね、来ていただいているのではないかとというふうに思っております。改めて観光分野の方々とですね、そういったお話をちょっと聞いてみたいというふうに思います。

記者

一方で、先ほど東京都知事であったり、政府に対してですね、何らかの呼び掛けをしてもらえないかと、というのは地方としてですね、今まで連休の時のようにですね、来ないでくださいと言うのは、その後いろんなハレーションもあったかと思うのですが。なかなか地方から来ないでくださいということは言いにくいのですが、できれば国なり東京都なりに都民の人にですね、あまり地方に行かないでもらえませんか、そういう呼び掛けをできないものかという、まあある種苦肉の策的なことなんでしょうか。

知事

そうですね、1つの県だけでやっても、それがすごい効果があるのかなという気はします。もちろんあの時は新しい生活様式というようなことがですね、県民の皆さん、国民の皆さんの間に、やはり意識浸透、また実践ということになっていなかったのも、特にゴールデンウィークの時の移動が心配されましたので、県としても県境の検温などさせていただきましたけれども、今回はですね、全国的にやはりこういった感染症予防ということをもう徹底するという方向に向かって、なおかつ医療提供体制、検査体制というものもしっかり拡充しながら、確保しながらということになるかと思っておりますので、これは本当に県民の皆さん、事業主の皆さんと一緒にこのコロナの波を乗り越えていかなければいけないというふうに、本当にまた肝に据えて頑張りたいと思います。

記者

共同通信の阪口です。よろしく申し上げます。都のほうへの要請は先ほどの質問でもあったと思うのですが政府に対しては何か具体的に変わったりするものってありますでしょうか。要請したいというか、政府から発出してもらいたいということというのは具体的に何かありますでしょうか。

知事

具体的ですか。そうですね、47都道府県がございますので、やはり全体を見ていただくのが政府でありますので、政府としてやはり東京都、1,000万人以上いる、住んでおられる大都市、人口が集中している所からの移動というのは、ほかの46道府県になるわけですが、そこに対しての移動ということについてはやはりそれは政府も何らかのお考えを

ですね、出していただければ大変ありがたいというふうに思っております。

どのようなことという内容までは申し上げませんが、やはりちょっと毎日 100 人以上というのは、夜の繁華街の人が多いにしても、地方から見ればやはり脅威に映るわけです。山形県は人口 100 万人ちょっとでありますので、山形県にすれば毎日 10 人以上、3 日間続いているというようなこととなりますので。そうですね、これは本当に大変な状況だなというふうに思っているところです。

記者

関連しましてですね、政府は緊急事態宣言を一度発令しましたがけれども、まだ新たな、2 か月ぶりに 1 人出たという県内の状況ではありますが、今の知事、現段階として、緊急事態宣言を発出するような状態にあるかどうかその辺の考えはいかがでしょうか。

知事

はい。今日の時点ではそういう状況ではないと思っています。ただこれからどうなるかわかりません。先ほど申し上げましたようにこの注意警戒レベルということも目安として考えましたけれども、また状況も変わってきておりますので、そういったことも総合的に勘案しながらですね、見直し、検討したいと思っておりますし、その内容についてのご意見を医療専門家、またオール山形会議（補足：新型コロナ克服・創造山形県民会議）というのもございますので、そういったところのご意見もお聞きしながら検討していきたいというふうに思っております。まず目の前は、そういうこともやりながらですけども、目の前はとにかく積極的疫学調査をして、封じ込め、抑え込み、そういったことに全力を尽くしたいと思っております。

記者

山形放送の宝池と申します。およそ2か月ぶりに感染者が確認されたということなのですが、知事として第二波が来たという受け止めはあるのかどうか。そして、今日、東京では131名、仙台市1人、新潟市1人と感染確認されてますが、県境検温をまた行うお考えはあるのかどうか、お願いします。

知事

はい、2ヶ月ぶりにお一人の方が感染確認されました。そしてまた、空港カウントにはなるのですが、実質的には県内にお二人ということになるかと思っております。それでやはり、今から積極的に疫学調査を行い、また濃厚接触者の方にはPCR検査をするというようなことで、全力で封じ込めをやっていくということが、私どもの責任だと思っております。どのぐらい拡大するかということは、今のところではわかりませんが、第二波が来たという意識をもって対処したいと、対応したいというふうに思います。できる限り拡大しな

いでほしいと思っておりますけれども、これは第二波の到来かと思っておりますね、しっかりと対応していきたいというふうに思っております。

県境検温というなお話がありましたけれども、あの時はですね、やはりゴールデンウィークで、年間で最も多く人が移動するというようなことも考えて、また首都圏のほうからの移動というようにも念頭に置きながら、やらせていただきましたけれども、今回あれと同じことを実施するか、今のところ、まだ考えておりません。昨日、どの記者さんでしたか、空港での検温はというようなことをおっしゃいましたけれども、サーモグラフィなどはですね、今でも空港に置いてありまして、ただ稼働はしておりません。そういうところは、どういうことができるのか、防災くらし安心部の考えを聞きながら検討していきたいと思っております。

記者

朝日新聞の西田と申します。先ほど、注意警戒レベルについては今後検討するというお話があったのですが、それと同時にイベントの人数ですね、1000人、5000人とかいうステップについても、一度目安をお示しになられていたと思うのですが、これについて、現時点で一人ということ、実質的にはお二人ということですが、これから例えば、ステップ、現在2であるわけですが、またステップ1に戻ったりとか、そういったことをお考えでいらっしゃるのかあるのでしょうか。

知事

イベントについては基本的にないのですが、ステップ1、2では、イベントには分かれておりましたでしょうか。

防災くらし安心部長

防災くらし安心部長の須藤です。今のお話の内容は期間ごとにイベントの上限を変えていくという、その基準のお話であると思っております。これは政府のほうで示しております基本的対処方針、これに沿っておりますので、その部分については、県内で発生したからということには連動しないという中身になっております。

記者

発生状況において、この日程をもう一回見直したりということは現時点では考えていないということよろしいということ。

防災くらし安心部長

対処方針の設定を変えるほどの感染状況にあるかということになれば、まだその段階ではないというふうに思っておりますので、その通りと思っております。

記者

さくらんぼテレビの岸波と申します。第二波が来たという意識を持たないといけないということで、通常営業に戻した飲食店とか観光業の方、たくさんいらっしゃる中で、こういう方々は、今後はどうしたらいいかわからないという方も結構出てくると思うのですが、その面ではいかがでしょうか。

知事

そうですね、申し上げましたけれども、やはり新しい生活様式、そして業種ごとのガイドライン、そこをしっかりと守っていただいて、正しく恐れながらも、できる限り普通の生活を行っていただくということでよろしいかと思っています。

記者

特にまた営業自粛をしないとといけないとか、そこまで敏感にならなくてはいいいという。

知事

そうですね、あまりにそこまで行きますと大変な状況になってきますので、きちんと新しい生活様式を実践しながら、普段通りの生活を行っていただければというふうに思っています。

記者

ありがとうございました。

記者

たびたび申し訳ありません、もう1点だけ確認なのですけれども、部活動とかですね、教育現場において、部活動なんかも徐々に再開して、県外との試合とかですね、そういったものも徐々に再開されているような中だと思えるのですけれども、今日感染が確認されたということで、今後それがまた見直されるようなことになるのかというのが、現時点で何かお考えがあるかどうかを伺えればと思います。

知事

そうですね、積極的疫学調査をやってですね、濃厚接触者を特定しPCR検査を行う。そういうことをやっていく中で、学校関係者が出ましたらば、教育委員会で考えている、こうなった場合、あんなった場合というのがあるかと思っていますので、そういったことに沿って、きちんと考えていくのではないかというふうに思っています。なお確かめたいと思います。